

影井 名月

所属大学：筑紫女学園大学 文学部 アジア文化学科

県内インターンシップ先：認定 NPO 法人地球市民の会

留学先：ニューヨーク（アメリカ）

留学期間：2019/10/11～2020/2/23（4年次）

受入機関名：NY de Volunteer

Gallery 91



### 活動概要と成果

○2019/10/11-2020/02/23 @NY de Volunteer

ボランティア団体の運営スタッフとして週に1度のミーティング、不定期(月に1度ほど)で行われるイベントの企画・運営・設営等を行いました。留学中のイベントの内容としてはEJC・スタディーツアー・ファンドレイズパーティー・クリーンアップ活動・日本語チャットクラブ等のイベントに関わらせていただきました。

日本にいた時はボランティア活動の経験がほとんどなく、運営スタッフとして関わらせていただくことに関しても不安でいっぱいでした。実際に活動させていただいて、ボランティア活動は地域に密着し年齢・性別・人種関係なく教育、生活、環境、文化すべてにおいて深く学べる場だと思いました。ただ住んでいるだけでは関わることのできないような方々との出会いやお話しも聞くことができ様々な価値観を知ったことで視野がものすごく広がり自分自身についても見つめ直すきっかけとなりました。また、運営スタッフのメンバーはひとりひとりがボランティアの活動に関してとても意欲的でどうすれば参加者、対象の方々に良い影響が与えられるか考えて活動されていたのが印象的でした。全員がしっかり考えているからこそボランティアに参加される方も対象の方々も満足度が高いのだと思い感動したと共に素晴らしい経験ができ自分自身の価値観も変わりました。一番印象に残っている活動は Queens の小学校で行われた EJC の活動です。小学生に書道の授業を行うというものでした。私にとって初めての EJC の活動でしたが、異文化体験で生徒たちが一生懸命学んでくれている姿勢、そして授業後に素敵な笑顔でハグや感謝の言葉を直接言ってくれたときは言葉にできないほどの感動と達成感がありやってよかったと心から思いました。

○2019/12/02-2020/02/14 @Gallery 91

インターンシップは週に3日の約2ヶ月半の活動で、現地で起業された日本人の社長さんの元様々な業務をさせていただいた。

日本の商品をアメリカで売るため、どのようなものが好まれるかのリサーチや SNS 等を使

った発信を行うことにより日本人が好むもの、アメリカ人が好むものの傾向を知ることができた。いちばん大きなイベントであった NY NOW という半年に一度行われる北米最大の見本市にも関わらせていただいた。イベント期間は準備期間もあわせ設営である商品の搬入、壁の塗装、棚の設置、商品サンプルの陳列まで全て企業ごとに行い、英語での受注や接客など普段できないような経験ができた。会話の中で何が今注目されているのかや、エコフレンドリーなものや SDGs と関係している商品などを好む傾向にあることも実際の活動の中で知ることができたのは大きな発見だった。普段の業務も英語で行うことが多く、多国籍な会社であったことから英語力に関しても専門用語を覚えたりコミュニケーションを積極的に行なったりと工夫をした。いろんな環境で多くの人と関わりながら働くことで困難も感じたがより多文化共生に関して「共働」という点から理解を深めることができた。

## 日本発信プロジェクト活動概要と成果

### ○日本文化を広める活動

#### ー実行したこと

ボランティア活動において、現地の小学生に書道や日本語の挨拶の授業を行った。日本語も書道に関しても初めて触れる生徒たちに英語で日本文化を伝える活動を行った。進行役を務めさせていただき、書道の歴史や書き方、日本語の挨拶の仕方や練習の流れを説明し実際に小学4年生と5年生の生徒に対して2コマの授業を行った。また、インターンシップ中に行われた NY NOW という見本市で佐賀県の陶器を出品できないか、事前国内インターンシップ中に関わりのあった佐賀の企業さんにアポイントを取っていたのだが残念ながら叶わなかった。ニューヨークでの展示で佐賀の陶器の魅力を伝えるべく様々な工夫やアプローチをしたが実現できなかったことが悔しい気持ちにもなった

#### ー成果・気づいたこと

書道の授業に関しては生徒たちはとても満足したような様子を見ることができた。日本文化を伝え子供達に新たな視点や異文化理解を体験してもらうことが目的で授業中は日本語での言い方や漢字の意味などを積極的に質問してくれる生徒が多く、日本文化に興味を示してくれた。生徒たちも移民の2世などが多く、小さい頃から多くの文化に触れて育っている。異文化理解の活動を日本でも行っていきたいと感じた経験であった。異文化理解だけでなく、ボランティアスタッフと生徒の間でも絆が生まれ感動的な授業となった。インターンシップにおいては、佐賀県の陶器に関しては結果

的に展示することは佐賀県の企業さんが別のイベントと重なってしまいタイミングが合わなかったことも踏まえて叶わなかったが、アプローチの仕方を工夫することや佐賀県の魅力が海外で発信できるチャンスがあることも知ることができ誇りに思うことが増えた。

#### 留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

コミュニケーション能力の向上と行動力が身に付いたと考える。留学では語学学校、ボランティア、インターンシップ等で多くの国の人や自分とは全く異なる境遇や価値観、考え方をを持った人々と関わってきた。考え方や価値観が広がったと同時にどうしても理解できないこともあった。例えばコロナウイルスの影響で実際にアジア人を差別するような人がいたり、語学学校の友達が授業中にアジア人がいるにもかかわらず差別的発言をしたことは胸が苦しくなった。ウイルスが原因で国際問題にも繋がりがねないと現在の状況最中海外にいたことで学べたこともあった。誤った認識や責任感のない発言、相手を考えない発言は国際的な場所に身を置いて非常に影響力のあるものであると改めて気付かされた体験であった。自分の国に誇りを持つと共に相手に自分の価値観や文化を押し付けない、自分の発言と行動に責任を持つことを考えなければならないと感じる場面が多くあった。

#### 事前・事後インターンシップの活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

事前インターンシップの活動では、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、佐賀県でパラリンピック、アーチェリーのタイ代表の選手の合宿が行われる予定であったため、それに合わせ佐賀県のツアーの企画を担当させていただいた。普段は気付くことのない、外国人や身体障害者の目線になって場所を選ぶことは難しいことが多かった。多文化共生を考えるにあたっては絶対に見落としではいけない点であり、自分ごととして考えることでどのような佐賀県になれば人、地球に優しくなれるのか、何が必要なのかが具体的に見えてきた。また、外国人向けの「やさしいにほんご」についてや他言語化が行われていること、佐賀県在住の外国人や技能実習生について深く知るきっかけにもなり、佐賀県や日本が行っている多文化共生に関しての活動や多文化共生リーダーについての存在についても知ることができた。ニューヨークと日本の多文化共生を比較し資料作成を行ったことも留学において深掘りすることとなり学びを深めることができた。

### トビタテで得た経験を踏まえ、今後どのように地域貢献をするか

留学で得たコミュニケーション能力、異文化理解力などを生かし、今後の事後国内インターンシップも踏まえ佐賀県に住む外国人の方が住みやすく佐賀県民の方々が国際理解が深まるような活動に積極的に参加したい。留学中のボランティアスタッフとしての活動を活かし佐賀県在住外国人や旅行者向けの他言語化やコミュニティの形成、国際交流イベントなどを行いたい。今後継続してできることといえばボランティア活動だと考えている。働きながらもボランティア活動には積極的に参加し、生活・教育・仕事などにおいても共生する社会を目指して地元の機関と関わりながら活動を続けていければと考える。毎年外国人数が増えており、特にアジアから多く来日する人が多いため佐賀県のNPO法人などと協力し地域の方と外国人をつなげる国際交流やボランティアなどで関わっていききたい。

### あなたにとっての留学の価値

実際に外国へ行き自分がマイノリティになる、自分が外国人になることで日本に住む外国人の気持ちや文化・歴史・価値観の違いを体験から学ぶことができる。日本人コミュニティの出会いもあり、現地の人との関わりも含め様々な境遇の人と関わることでコミュニケーション能力を高め、価値観も大きく広がる。また、海外から見た日本についても知ることができ日本の進んでいる点、遅れている点について考える機会に繋がる。自分自身についても様々な生き方や選択肢が広がり将来について、自分自身が何者なのかなど考えることが増える。実際に留学してみないと見えてこないことや多くの人との関わり、生活における小さな発見から国の違いや疑問、日本においても参考にすべきことなどが見えてくる。日本で常識は海外では通用しないこと、自分だけでは見えない価値観や生活を知ることが多文化共生をテーマにしていた自分にとっては視野が広がる素晴らしい機会だった。